

口頭⑨

## 結核治療の行政と薬局の連携について

川崎田町店  
○小口 聡久

### 【目的】

結核患者の標準的治療期間+3ヶ月、他職種と連携し治療から脱落しないようにする。

### 【方法】

保健所より直接服薬確認療法（DOTS）への協力依頼があり、保健所の保健師と面談後、結核患者のDOTSを開始となる。H30.1～H30.9の期間、保健師、包括支援センター看護師、薬局薬剤師が協力しDOTSを弾力的に実施する。

### 【結果】

1月17日～8月29日の期間、薬局DOTSを実施した。服薬忘れは12カ月の治療の中で1回のみであった。6月に実施した胃液検査、PCR検査、抗酸菌染色がすべて陰性との結果があり、既定の服薬期間が終了したためDOTSは終了となった。

### 【考察】

今回の訪問によるDOTSに関して、保健師、地域包括支援センターの看護師、薬局で連携して実施していたが、マンパワーが必要だと感じた。患者宅近隣の薬局が協力し実施することで、その労力を最小限に抑えることができる。川崎市の結核患者数は減少傾向にあるが、全国平均よりも高い現状がある。治療の脱落による結核蔓延を防ぐために、薬局も他職種と連携し可能な限り結核治療に参加していく必要がある。